

47. 心筋²⁰¹Tlシンチグラフィで発見された悪性胸腺腫の2症例

横川 晃治	板金 広	柳 志郎	
秋岡 要	武田 忠直	(大阪市大・内)	
溝口 精二		(同・二外)	
波多 信	望月 得郎	越智 宏暢	
小野山靖人		(同・放)	
松本 茂一	日高 忠治	中井 俊夫	
		(日生病院・放)	

²⁰¹Tlは心筋イメージング製剤として日常臨床に広く用いられている。今回、われわれは心疾患のため入院した患者で、²⁰¹Tl心筋シンチにて縦隔に異常集積を認め手術の結果、悪性胸膜腫と診断された症例を経験したので報告する。症例1は虚血性心疾患の患者でPTCAの効果判定のための負荷心筋シンチ施行時、前縦隔に異常集積を認めた。⁶⁷Gaシンチでも同部位に異常集積を認め、胸部CTでも腫瘍像がみられた。手術の結果はmixed cell typeの悪性胸腺腫であった。症例2は大量の心囊波貯留のため入院となった。胸部X線CTで前縦隔に内部に石灰化を伴う腫瘍像がみられ、²⁰¹Tl心筋シンチでも同部位に異常集積を認めたが、⁶⁷Gaシンチでは集積はみられなかった。胸部X線CTからは奇形腫も疑われたが手術の結果はepithelial cell predominant typeの悪性胸腺腫であった。

示した2例は、いずれも胸部単純写真では縦隔腫瘍の診断は困難であり、非侵襲的検査としての核医学的手法は非常に有用であった。⁶⁷Gaと比べて胸腺腫に対する²⁰¹Tlの診断率は高いといわれ、また²⁰¹Tlは静注後早期に撮像することが可能でありエネルギーも適当で、骨への集積もないことから鮮明なイメージが得られ画像診断上有利である。しかし腫瘍に対する²⁰¹Tlの集積機序は明らかでなく、今後²⁰¹Tlの胸腺腫に対する診断率、良悪性および組織型との関係、集積の機序についてさらに検討が必要であると思われた。

48. 肺癌および炎症性肺疾患における¹²³I-IMPと⁶⁷Gaの集積パターンの比較検討

末松 徹	楢林 勇	高田 佳木
大林加代子	加納 恵子	坂本 武茂
込山 豊藏	吉野 朗	木村 修治
		(兵庫成人病セ・放)
坪田 紀明	八田 健	柳川 昌弘
吉村 雅裕		(同・胸外)
加堂 哲治	山本 裕之	(同・呼内)

肺癌および炎症性肺疾患について、¹²³I-IMP肺シンチグラフィdelayed像(以下IMP像と略す)と⁶⁷Gaシンチグラム(以下ガリウム像)を対比し、集積パターンの相違について検討した。対象は原発性肺癌25例、転移性肺癌2例、間質性肺炎2例、びまん性汎細気管支炎1例、肺炎1例および肺化膿症1例である。IMP像は座位でIMP 3mCiを静注し、24時間後に撮像した。ガリウム像は、ガリウム3mCi静注後72時間に撮像した。肺癌においては、IMP像では腫瘍周辺部の肺組織に集積増加を認めたのに対し、ガリウム像では腫瘍に一致する集積増加がみられた。IMP像では肺癌の二次性変化として無気肺を伴っていた5例全例で同部に集積増加を認めたが、ガリウム像では集積増加例はなかった。IMPは無気肺の描出に非常に鋭敏な薬剤であると考えた。活動性のびまん炎症においては、ガリウム像ではX線像上の陰影濃度にほぼ比例する集積増加がみられたが、IMP像では異常の範囲は明確にできるものの、病巣内のRI分布は比較的均一であった。

49. 肺小細胞癌における⁶⁷Gaシンチグラフィの検討

加納 恵子	楢林 勇	高田 佳木
大林加代子	平田 勇三	末松 徹
押谷 高志	久島 健之	岡田佳代子
坂本 武茂	込山 豊藏	吉野 朗
木村 修治		(兵庫成人病セ・放)

肺小細胞癌40例(男性35例、女性5例、46から80歳、平均年齢64.7)の⁶⁷Gaシンチグラフィを検討した。TNMの示現度は、T因子はT₁ 1/3, T₂ 10/10, T₃ 20/21, T₄ 5/6, N因子はN₀ 1/2, N₁ 0/2, N₂ 10/24, N₃ 10/12, M因子は骨5/10, 肝5/6, 副腎1/4, 肺1/2, 脳0/2,